令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【沼影小学校】

① 目　標・策

	目　標		策
知識・技能	令和5年度市学習状況調査の国語及び算数の「知識・技能」に関わる領域において、令和4年度の自校の結果より2ポイント向上させる。	⇒	タブレット活用を含めたドリル学習により、練習問題と日々の授業の併用によって知識・技能を高めていく。
思考・判断・表現	令和5年度市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度市学習状況調査の自校結果より無解答率を2割下げる。	⇒	学習指導の中で、自分の考えを表現し、交流の中から認め合う場面を意図的に設けていく。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の結果より、各教科に対する興味・関心の項目を2ポイント上昇させる。	⇒	学習が好きになるよう、身近な事象との関わりに気付かせる授業づくりと、タブレット等を用いた学習の取組を継続し、学習に対する興味・関心を高めるようにする。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	国語「情報の扱い方に関する事項」について、全国平均は上回っているが、他の項目より全国平均との差が小さかった。 算数の知識・理解については、全国平均を上回っていた。
思考・判断・表現	国語「書くこと」についての力を今後も伸ばすため、学習の中で書くことに継続して取り組む。 算数の観点別のポイントは全国平均を上回っているが、問題別にみると理由を問われた問題については、無回答率が高い傾向がみられた。
主体的に学習に取り組む態度	「自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対しては、肯定的な回答をしている児童は過半数以上おり、実施時間については1時間程度の学習習慣がある。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目　標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

小3	国語：令和4年度調査と比較し、大きな変化はみられないが、思考・判断・表現のポイントが＋0.3ptであった。我が国の言語文化に関する事項について課題が見られる。 算数：令和4年度調査と比較し、算数全体で＋1pt、知識・技能については＋1ptであった。測定のポイントに伸びがみられるので、今後も継続して学習に取り組むようにする。	小4	国語：令和4年度調査と比較すると、全体のポイントは＋1.3ptであった。書くこと、読むことについて今後も継続して指導を続けていく。 算数：令和4年度調査と比較して、＋0.5ptであった。データの活用について課題が見られた。知識・技能については＋1ptであり、今後も継続して繰り返しの学習を行う。
小5	国語：話すこと・聞くこと、読むことについて、課題がみられる。書くことについては、今後も繰り返しの学習を継続し、取り組む。 算数：令和4年度調査と比較して大きな変化はみられない。 社会：令和4年度調査と比較して大きな変化はみられないが、地理的環境と人々の生活については課題がみられる。 理科：「エネルギー」を柱とする領域について、無回答率が高いため、繰り返しの学習を継続し、自分の考えを伝える力をつける必要がある。	小6	国語：令和4年度調査と比較し、大きな違いがみられないが、読むことについては、今後の課題として取り組む必要がある。 算数：令和4年度調査と比較し、全体で＋0.7ptであるが、継続して基礎・基本の学習を行っていく。 社会：令和4年度調査と比較して、地理的環境と人々の生活の領域に課題がみられる。 理科：全体的に課題がみられるため、繰り返しの学習でしっかりと定着させる必要がある。また、無回答率が高いため、自分の考えを伝える学習を継続して行う。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	日々の繰り返しを大切にした授業を継続して行ったが、令和4年度と比較して、令和5年度の結果から、平均正答率の目立った上昇はみられなかった。	B
思考・判断・表現	タブレット端末を活用した、自らの考えを伝えるという授業づくりを継続して行った。国語については、令和4年度と比較し、思考・判断・表現のポイントが微増となっていた。	B
主体的に学習に取り組む態度	小5の「算数の勉強は好きですか。」という質問に対して、肯定的な回答が得られていた。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という問いに対して、肯定的な回答が約8割となっていることから、学習に対して主体的に取り組んでいることがわかる。	B

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	全体的にみると、正答率は市の平均よりも上回っているが、経年で分析すると学年ごとに特徴がみられる。日々の学習を繰り返し行い学習したことを身に付ける学習指導を継続する。
思考・判断・表現	タブレットを使って、プレゼンテーションを行う学習が浸透してきているため、自らの考えをどのようにまとめ、表現すればよいか、教科横断的に行うことを継続的に行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	ICTが学習に使われることが多いため、学習のふりかえりとして蓄積したデータを活用しながら、自らの学習に取り組み姿勢を育ませるよう学習指導を継続的に行っていく。